

認知症疾患医療センター 公開講座開催報告

2026 度の公開講座は 8/4（火）に、当院の大会議室を会場に開催されました。今回は「認知症とともに生きる ～おれんじドアの活動から」と題しまして、認知症ご本人とご家族のためのもの忘れ総合相談窓口である「おれんじドア」の実行委員会代表の丹野智文さん、事務局の今田愛子さん、そして若生栄子さんから話をいただきました。



認知症とともに生きる丹野さんのリアルな体験談、そしてお三方の生き活きとしたやりとりに、ときに笑いもおこりつつ、参加された皆さんは（おかげさまで 60 名の満員！）真剣に耳を傾けておられました。

参加者のうち 50 名の方からアンケートにご協力いただきました。（回答率 83%）

- 若くして認知症にという話は聞いていたが、これだけ話せて明るい方がいることに驚いた。
- 丹野さんのお話は何回か聞いていますが、ますますお元気で感動しました。生き方ですね。
- 講師がお互いに尊重し合いながら、水平な関係性でお話しされている様子。とても素敵。
- 丹野さんと若生さんのやりとりに対等な関係性のひとつの正解をみた気がした。

このようなお三方の素敵な関係性が紡いだ言葉の数々が、参加者に様々な気づきを与えたことがアンケートから伝わってきました。

- もっとも多かったのが「失敗しない様に先回りするのでなく、**当事者が失敗できる環境が大切**」「先回りや過干渉は本人の挑戦機会を奪いうつと依存を招く」という点でした。そのほかにも・・・
- 「家族として心配が先に立ち、本人の気持ちを大事にできず、落ち込むという負のループにいましたが、『**心配するけど信用もしてみよう**』と思います。」
- 「本人と家族の思いはズレることがままあるが、だからこそすりあわせが大事。」
- 「自分で選択して決定することが大切。思い入れのあるものは記憶に残りやすい。」
- **認知症観の変化**に関する回答もありました。「認知症の人」ではなく「〇〇さんはもの忘れをするが、元気」という捉え方。」「認知症の人は守られる人という認識をすてる。」



一方で、以下のような疑問もあげられました。「先回りは本人の自立を妨げるかもしれないが、高齢のため本人に意欲がないと、家族がやらないといけない。」「皆同じ状態ではない。自分の家族なりの対応ポイントを知りたい。」こうした疑問をお持ちの方も含め、本日の公開講座にご参加いただき、少しでも心が動いた方、気になった方は、どうか迷わず「おれんじドア」をノックしてみてください。

※「おれんじドア」は毎月第 4 土曜日／14 時～16 時／東北

福祉大学東口キャンパスで開催（ご参加の際は、日程変更がないかお問い合わせください。お問い合わせ先：070-5477-0718（月～金 10 時～15 時））